

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(1号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成30年9月19日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青空と山の緑のコントラストを見ながら、小鳥のさえずりを聞き館内を散歩しています。畑を耕し、ボランティアの方と入居者様、職員と一緒に苗を植え育て、収穫し献立に取り入れています。毎月季節を感じる行事を計画実施し、特に夏祭りでは、子供会、老人会、自治会の方々を招待し、地域との関わりを大切にしています。入居者様の話を傾聴し、一日を通してその方の『出来る事』を十分発揮できるように支援しています。又一人で居たい時は居室で過ごし、皆と過ごしたい時にはホールに来て、歓談したりして、今までの生活のペースに合わせ思い思いに過ごして頂ける様にしています。特に、身体拘束や虐待防止に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ししとう、おでん大根等が植わる畑と、季節の花が咲き誇る庭園を囲むように3つのユニットが別棟で建つ事業所です。この畑には草刈り、土ならしと裏方に徹する畑ボランティアが訪れ、利用者も芋や花の苗の植え付けを手伝っていて、事業所の一大イベントとして昇華しています。畑の収穫物も使い、子どもたちと並んで野菜の皮むきをしたり、鍋の煮え具合をみたりと楽しい時間を過ごし、120名分のカレーを調理した夏祭りも思い出の一つです。また公民館まつりやかわせみカフェなど地域行事にも欠かさず出かけ、地域情報の窓口でもある「健康クラブ」と「子ども会」は運営推進会議メンバーとなっており地道な交流が実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『思いやりの介護で笑顔いっぱいの家』の理念のもと、職員は元気で明るく入居者様に寄り添い、笑顔を引き出すようにしている。入居者様も明るく笑顔になって頂いている。	運営理念は掲示のうえ、「職員が楽しめてないと利用者に伝わらない」と、管理者から都度言ってきたせています。運営推進会議で「ついできてしまうスピーチロック～」が話材となったとき、エールの言葉が幾つも家族から拳がった議事録からは日頃のケアサービスへの信頼が覗えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りを通して地域の方々との交流を持っている。また月1回地域の常会に参加し、地域の行事に参加したりしている。	常から地域との連携が堅固です。事業所の夏まつりには子どもだけで50名、総勢120名が賑わい、公民館まつりやかわせみカフェなどの地域行事には頻回に出かけ、地域情報の窓口ともなっている「健康クラブ」と「子ども会」は運営推進会議メンバーとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症カフェに参加して、地域の方に認知症への理解を高めてもらっている。顔の見える関係作りをして、支援につながるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で、地域の方やご家族様に参加して頂き、入居者様の様子や行事、サービスの報告をしている。会議で出た意見はサービス向上に活かしている。不参加の方にも会議録をお渡ししている。	課題としていた「運営推進会議に出席くださる家族が固定化している」は、会議名称を「つなぐ会」と親しみやすく替え、各ユニットでの茶話会(雑談会)を設けてと向上させています。また自治会長が多忙で出席できない点については、「健康クラブ」が代役を担ってくださっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや介護保険係の担当者と連絡を取り、空き状況を知らせるようにしている。地域担当北部包括支援センターの職員は毎回参加して頂いている。9月の会議には市職員も参加して頂き関係を築くようにしている。	介護相談員は年2回の来所ですが、沢山話をしたい利用者にとっては占有できる人が確保できて大変喜ばれています。市が主宰するグループホームの情報交換会にも参加していて、年2回の内1回は介護相談員の皆さんとの話し合いの機会もありました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨今の状況から防犯上、入居者様の安全確保の為玄関は施錠させていただいているが、入居者様が外に出たいと言われれば、職員が付き添い外に出ている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、職員に正しく理解をするようにしている。	身体的拘束適正化検討委員会を設置し、4月、7月と2回の会議運営を終え、10月に第3回を予定しています。法人主導の年間研修にも位置付けられ、事例検討的な協議の場もあり、置換の言葉や方向性の切り替えといった具体的な向上方法について職員間で共有しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学んでいる。何気なく使っている言葉でも、不適切になる場合があるので、職員同士、特に言葉使いには注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他館で『きづなの会』を利用している入居者様が居るので、制度を理解するいい機会を得ている。必要性がありそうな入居者様のご家族様には、成年後見制度があることをお知らせしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約の説明をし理解を得ている。質問や疑問、不安は、その都度聴き、納得いくまで丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関のカウンターにご意見箱を設置しているが利用は無いので、直接ご家族様に話をして、ご要望やご意見を聞くようにしている。つなぐ会やたより等で意見を反映させている。	「緊急時の対応について直接話し合いをしたい」と申し入れた際には12名の家族が運営推進会議に足を運んでくださり、茶話会も家族同士気兼ねなく話ができるとして好評です。本人の写真入りの紅葉だよりも毎月届け、情報共有に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を開き意見や要望を聴く機会を設けて、要望や意見を反映させている。会議に参加できなかった職員にも会議の内容が分かるように記録を残している	「職員会議は3ヶ月に1回を目安に必要なに応じて～」と、法人の方針がでた時点でそのように態勢を変え、現在は身体的拘束適正化検討委員会会議終了後に話し合いの場を設けています。有給はほぼ完済で、職員意見の大半はリーダー経由で管理者に届いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「給与・勤務・職場110番」が法人にあり、疑問質問があれば聞ける体制が整っている。資格を持つことで給与に反映されやりがいや向上心を持って働ける環境づくりがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は必ず受けている。法人外の様々な研修の知らせを職員に告知していて、参加しレベルアップを図ってる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人でグループ職員の質の向上を図る為勉強会や講習会があり、参加して、サービス向上の取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に、困っている事や不安をじっくり聞いたうえで、要望を聞き、安心して生活ができるように寄り添い、関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して、困っている事や不安な事が言える関係作りに努め、要望に添えるように介護をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活状況等を聴きながら、本人・家族が今一番必要としている事を、見極め、他のサービスも含め、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が今までやりなれた事をお手伝いしてもらい、時には入居者様から教えてもらい、生活に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の来設時に本人の困っている事や悩み等に対し、施設での対応、支援等を伝えながら、御家族様にも意見や家での対応方法等聞き、ご本人をどのように支えていったらいいか等話し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎週家族が来設し、ご主人に会いに行く方がいる。出かけていく事が難しい方は、御家族や親せき、馴染みの方に来設をお願いしている。また地域の行事に参加して関係性が途切れないように努めている。	隔月開催のかわせみカフェ(認知症カフェ)に通うことも続き、また理美容訪問と重なる日は理美容日を変更しており、参加意欲の高さも見られます。似顔絵描き、習字やレース編みを続ける人もいるほか、全体に向けても、「初詣の後は書初め」といった時節行事の継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩時に他館の方々とあいさつをしたり、会話をしたりしている。又合同で夏祭りや敬老会等を行い入居者同士関わりを持てるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば本人の経過をケアマネや関係先の相談員に伝え、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中からや、御家族様に伺ったりして思いや希望をくみ取っている。困難な場合は行動を観察したり、筆談を通して思いに近づけるようにしている。	筆談や耳元で伝える必要がある人もいますが、その人に合わせて職員は関わりに工夫を加えおり、得た内容は「情報収集シート」に落とし込んでいます。例えば、「陸上部で県大会にも出た」との新情報は家族も驚きの事実で、「よく聴こう」との職員の動機づけとも成っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に収集できなかった情報は、本人の話の中から拾い上げるようにしている。家族からもなじみの暮らし方や生活環境、これまでのサービス利用の経過を聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	特別な事が無い限りは入居者様が希望する1日の過ごし方をして頂いている。何か変化があった時にはその時話した事を記録を残し、全職員が周知するようにしている。これはできないと決めつけず、一緒にやることで新たな発見をすることもあるので、いろいろな事に挑戦し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向をしっかり伺い、介護計画を立てている。3ヶ月に1回のモニタリングでご本人や家族の満足度や不満等伺って生活のあり方を考え、現状に即した計画に変更する事もある。	介護計画書の短期目標は日々記入する介護記録に示され、「できた」「できない」を職員が意識できるとともに現場と連動する仕組みがあります。3ヶ月に1度のモニタリング&カンファレンスでは利用者本人から収集した「困っていること」も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護の中での気づきやご本人の気持ちや行動を介護記録に記入し、職員間で情報を共有できるようにして、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩の時間以外でも外に出たい希望があれば職員が付き添って散歩したり、隣接の施設の売店に買い物に付き添ったりして、可能な限り柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域の敬老会、子供会を招待して夏祭りを行っている。その場で習った盆踊りを披露している。ボランティアの協力もと畑で野菜作り、収穫し、朝食や夏祭りにも使用している。また市から花苗の提供があり、花壇を作り植え替えをして、散歩時に愛で、楽しめるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度仕診をして頂いている。緊急時にも対応して頂ける様に良好な関係を築いている。入居者様もご家族も納得して頂いている。往診医で対応できない場合は、御家族様の協力の下、他科受診をしている。薬は薬局から届き、変更の有る時には注意点や使用上の説明を受けている	「馴染みの関係」に留意し家族に案内していますが、実際は全員が月1回訪問診療くださる事業所の協力医に変更しています。専門医受診については職員説明が必要ならば同行するも基本は家族がおこない、状況は家族から口頭で受けて介護詳細(個人記録)に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の健康観察時には、日常の気づきや体調の変化があれば伝え、助言を得て、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活の様子を伝え、情報共有し安心して治療できるようにしている。退院時にはカンファレンス等に参加し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の生活状態を考慮し、頃合いを見て家族と終末期のあり方について話し合う機会を作っている。施設で対応できること、出来ない事を話、系列の施設を紹介するなど対応をしている。	3年前に看取りが続いた経験から学びもあり、それを糧に此处2年間で1名のお見送りしています。今後は看取り加算もとることを視野に入れて、職員も業務の一環として前向きに取り組めており、緊急時対応及び延命治療については袋井市消防署の「傷病者情報表」で対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応として救急訓練を受けているが、経験の少ない職員もいるので、初期対応がスムーズにできるように入居者様の体調をしっかりと把握し、急変時の対応方法を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回避難訓練の手順を話し合い、年に2回の避難訓練では袋井ケアセンターと合同で実施している。地域の防災訓練には人員の確認を行い報告している。	年2回の法定訓練では利用者も防災頭巾装着で、避難の時間測定もおこないます。久方ぶりに消防署を招いたところ、講評に「以前に比べ動きが…」と挙がったので今後の課題としています。その他にも日本赤十字の協力を得て、近隣の老人会の皆さんと救急訓練も実施しています。	「停電となったらどうなるか」を机上訓練として一度おこなうことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人的な話をする事は居室で話をしてプライバシーを確保している。又入浴やトイレ介助等は特に気を配り声掛けをしている。	「明日迎えにくるそうですよ」「ちょっとあちらと一緒にいってもらえますか」といった本人が好みとする定番ワードが培われていることが見え、食事では調味料を事前にかけてしまわず、一人ひとりに「何をかけますか(ソース、しょう油、かけない等)」と尋ねて廻る職員の姿を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には希望や意向を伺い決めて頂いている。出来ない方には、選択肢を作り、表情やしぐさ等を見てなるべく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望の言える方は、その方の生活のペースで過ごして貰っている。その他の方は声掛けし、体調を見ながら、気持ちに添えるように生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの準備を自分でやって頂き好きなものを選んで頂いている。季節に合った洋服や服装の乱れがあれば声掛けし、直させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの献立に変更したり、食事の下準備を一緒にすることで、食事への楽しみを増すようにしている。季節が分かる食事を取り入れている。	昼食前にバタカラ体操で誤嚥を防ぎ、そのまま「いただきます」と号令が入り、食事となります。「利用者は皆食事に集中したじらう」との配慮でテレビを消し、BGMも流れていません。3月ぼた餅、5月は柏もち、9月おはぎと、季節に合わせた食事レクもおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量のチェックを毎日している。体重減少気味の方には補助食品を提供し補っている。又嚥下状態の合わせて食事形態を変え、食べやすいようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方はなるべく毎食後行うように声掛けしている。その他の方は入床前には必ず口腔ケアを行い、口腔内の状態に合わせた用具を使用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在オムツ使用者はいません。紙パンツを使用している方も、排泄パターンを把握するために排泄チェック表を活用し、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	トイレはフロアに3箇所あり、内2つは車いす用として広くつくられています。便秘対策としては運動、散歩をおこない、横臥の時間が長い利用者には「少し起きましょうか」と声をかけ「座る時間」を増やすようにしています。パットの消費が激しい人の量を減らすことに成功した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、便秘気味の方には、水分を多く摂ってもらっている。便秘薬もその方個々に合わせて調整している。なるべく歩く事で、腸内活動を活発にさせ、自然排便ができるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安全確保の為、職員の多い時間にやっている。入居者の体調や希望に合わせ、衛生が保てる範囲で入浴してもらっている。夜間に身体を拭きたいと言われる方には、蒸しタオルを提供している。	「週2日は入浴する」として、「今日も入りたい」場合には蒸タオル等の代替メニューを提案しています。「一番風呂に入りたい」人が多いため、各ユニットには順番表が配され、二人で湯船に浸かってアレコレ話し込む仲良しペアもいます。蜜柑の皮を干したものを浮かべる日もあります。	脱衣所がやや狭いことから、更に整理整頓を向上させてゆけたら、なお良いと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自己決定される方が多く、休みたい時には居室で休まれている。自己決定の難しい方は、様子を見て、休息が必要ならば休んでもらっている。居室の温度や明かりにも配慮し、その方の好みに合うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の内服している薬の目的や容量用法をお薬表を見て確認し、理解している。薬が変わった時には家族にもお伝えし、変化がないか様子を確認し、職員も周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴をしっかり把握し、張り合いのある役割を見出し、そのお手伝いをやって頂く事で、喜びを感じるように支援している。季節の行事を取り入れ楽しみを持って頂く事で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩時以外でも外に出たい時にはその方の希望に添うように散歩に出かけている。家族の協力の下、毎週他の施設のいるご主人に会いに行かれる方もいる。2ヶ月に1回認知症カフェがあり、可能な限り参加している。	事業所の敷地内を1周するだけでも季節の花に触れることができ、気候がいいときは散歩が慣行されています。初詣とお花見は年中行事として定石となり、また大型車を隣接事業所から借りることができるため、加茂菖蒲園をはじめ近隣の施設にも足を運んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりおこずかいを預かり、使いたい時にいつでも使えるようにしている。隣の施設に売店があり、希望者は買い物に行っている。買に行けない方は、希望を聞き、注文して配達してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話し、職員が代行して家族に伝えている。遠方からの親族の手紙が来た時には代読し、返信の代筆等もして支援している。その親族から感謝のハガキが届いた事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして気持ちよく過ごせるようにしている。入居者様が暑すぎず寒すぎずにと温度管理をしている。光や温度の調節にカーテンやサンシェードを使用している。台所の調理の音や匂いを感じてもらい、生活感が感じられるようにしている。	外壁の色と、室内の扉やカーテンの色をユニット毎に統一しています。千日紅、マリーゴールド、玉すだれ、コリウスが窓枠に絵画のように収まり、行事の度に写真を撮影して壁に飾るとともに繰り返し張り替えていて、日付が最新なことが嬉しい掲示です。	壁紙の汚れじみとエアコンの経年劣化が目立つので、次の予算組で検討されると良いと思います。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには3つのテーブルがあり、気の合う方同士がテーブルを囲み話をしている。一人になりたい時には居室で過ごしていて、うるさくない程度にホールの活動音が聞こえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、本人の使い慣れた物や、好みの物を持ってきてもらい、居室に配置し、なるべく自宅と変わらないような居心地よさが保てるような工夫をしている。	洗面台とカーテン付のクローゼットが備わった居室にはテレビや藤椅子などの持ち込みが見られます。入口にレクリエーションで作成したネコの折り紙で飾り付けたユニットもあり、全てのユニットでは扉の上部に車いすマークを取り付け、避難援助の目安としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所に張り紙をし、入居者様が行動できるようにしている。車いすで入居された方も、歩行器や押し車に挑戦し、出来るだけ自分の力で歩けるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(2号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成30年9月19日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青空と山の緑のコントラストを見ながら、小鳥のさえずりを聞き館内を散歩しています。畑を耕し、ボランティアの方と入居者様、職員と一緒に苗を植え育て、収穫し献立に取り入れています。毎月季節を感じる行事を計画実施し、特に夏祭りでは、子供会、老人会、自治会の方方を招待し、地域との関わりを大切にしています。入居者様の話を傾聴し、一日を通してその方の『出来る事』を十分発揮できるように支援しています。又一人で居たい時は居室で過ごし、皆と過ごしたい時にはホールに来て、歓談したりして、今までの生活のペースに合わせ思い思いに過ごして頂ける様にしています。特に、身体拘束や虐待防止に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ししとう、おでん大根等が植わる畑と、季節の花が咲き誇る庭園を囲むように3つのユニットが別棟で建つ事業所です。この畑には草刈り、土ならしと裏方に徹する畑ボランティアが訪れ、利用者も芋や花の苗の植え付けを手伝っていて、事業所の一大イベントとして昇華しています。畑の収穫物も使い、子どもたちと並んで野菜の皮むきをしたり、鍋の煮え具合をみたりと楽しい時間を過ごし、120名分のカレーを調理した夏祭りも思い出の一つです。また公民館まつりやかわせみカフェなど地域行事にも欠かさず出かけ、地域情報の窓口でもある「健康クラブ」と「子ども会」は運営推進会議メンバーとなっており、地道な交流が実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念は「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」であり、職員は常にその言葉を忘れず、入居者様の笑顔を引き出すために笑顔で接し、日々の業務の中で実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域でのそば祭り、かわせみカフェに参加しています。入居者様の作ったものを文化祭に提出しその提示物を見学に行ったりしています。施設では年1回の夏祭りに子供会や老人会を招き交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を「つなぐ会」と名前を変えご家族様に親しみやすく参加しやすいようにしました。その会議の中でも認知症についての介護のあり方や認知症養成講座を設け参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し利用者・ご家族、地域の方々、他行政の方が集まり活動報告を行っています。その後、全ての人から色々な意見を伺い、その思いを取り入れながらサービス向上に生かせる様にしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者は運営推進会議に参加いただいている。又、日頃よりお互いの情報を提供し合っていて、今の状況を知って頂き協力関係を築くよう取り組んでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上、現在は玄関に施錠をしています。法人は身体拘束適正化委員会を立ち上げ各施設ごとに3か月に1回会議を行っている。身体拘束がもたらす弊害をしっかりと把握して「身体拘束0」に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で入所者虐待事態発生時・手順・定義・防止、具体的な行為について勉強会があり、職員は常に注意し合える環境作り力を入れています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでいます。後見人がある入居者様もいます。必要性がある場合はご家族様に情報提供できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際には不安や疑問点については十分に説明を行い理解していただけるまで話し合い納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「つなぐ会」で運営に関して利用者・ご家族様からの意見や要望を聴き、全体的に広く意見を聴くようにしています。改善すべきことがあれば謙虚に取り入れ改善を図っている。又、日頃より、家族様とは意見交換をしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会、又、各ユニット全体の意見をまとめ常に話し合いをしてより良い施設を目指しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得による給料の反映があります。各施設のボーナスや給料への変更改善があり、各自の頑張り次第で分配が決まります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では定期的に研修を開いて、職員が意見を言ったり、講習に参加している。法人外での研修にも積極的に出席して介護力を身につけたり、質の向上に努めている方もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外での研修に参加することで同業者と交流する機会があり、法人内では、より良い介護をする為に他関連施設の方々と研修をし意見交換することで交流を図り、サービスの向上に取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より本人の要望や意向は会話の時にしっかり聞き取り、入居後も本人が不安を抱かないように常に声掛けし、皆との懸け橋になったりして、ご本人を一人にしない心がけをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも面接時の段階より、困っていることや不安なことは十分に聞き取りをしています。入居後の面会時の時は、本人の状況や問題点などを話し合っ解決に向けての支援をすることで関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本当に「その時」の一番の必要性について十分考えることが課題だと思っています。その思いに近づく様に色々な方面から検討していきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るかできないか本人の意見を参考に一日の流れの中で職員と一緒に作業を進めていっています。生活を共にすることで家族のような関係づくりをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、家族の思いも大事に行きます。家族様の協力は必須と考えています。協力し合いながら本人が何も心配の無いよう支えていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日中の面会時間の制限はなく、いつでも馴染みの人の訪問があったり、あるいは逢いに行ったりと関係が途切れないように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の良好な関係、気の合わない同士などの把握をし、孤立されている方が無いよう声掛けしたり、レクレーションを入れたりして全体が一つになるよう支援に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関連施設への移動となった場合は情報を共有していますし、出向いた際は本人と面会し声掛けを行っています。又、ご家族様より相談事があれば丁寧に対応させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らし方、生活のスタイルがあるかなど、ご本人や家族の意見を参考に希望に沿うようにしています。困難な場合でも毎日の会話、何気ないしぐさを見逃さずにチーム一丸となって話し合いその思いに近づくよう検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	聞き取りの際に生活歴、生活環境、馴染みのある暮らし方などを聞き取っている。これまでのサービス利用の情報も聞いて、どのような生活してきたのかの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操や散歩・レクリエーションといった毎日の日課には参加されていますが、それ以外は自分のペースで各々過ごされています。心身の状態により機能訓練をしたり、日常業務も手伝ってもらったりして本人の能力の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回のモニタリングの他、日々変化があれば、その都度チームで話し合い考え決定しています。その決定を踏まえ、家族様の意見も伺い介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日々の様子、変化のあったことを記入し、職員間で情報を共有しています。何がより良い介護か何時でも探りながら介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の変化で新しく生まれたニーズに対してこのサービスはそぐわないなど感じた時は他のサービスの模索をしその方にあった一番のサービスを色々な方向から考えていく様になります。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の畑は地域の方の協力のもと、作物を植え、収穫を待ち、収穫した物を提供することで食事を楽しみにされています。市からの花の苗の提供があり、花壇をきれいの植え替えたりして皆で散歩の時に愛でています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回往診があり、医師の質問に本人が応えたり、職員が細くして伝えています。体調の変化・健康管理の相談して医師より指示を受け適切に支援しています。急変時の連絡も携帯にすぐに繋がるようになっていました。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来設した際、入居者様の様子や気になる事を伝え相談します。ご本人様からの相談や聞いておきたいことがあればお話す様促しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院の際は、職員が必ず付き添い情報を詳細に伝えます。又、経過の把握に病院へ行き情報を交換し相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化は、ご家族様には来設時や電話で日頃より報告をしている。話し合いをしながら他の施設も視野に入れながらも最後まで支援していける様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の教育、勉強会、他の研修会で学んでいる。運営推進会議の時でも年1回応急手当や救急法に関する訓練をご家族様や入居者様も参加して行い、実践力を見につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ケアセンターを含め合同で実践訓練を行っている。両施設とも月1回の緊急連絡網の確認連絡も行っている。又、地域との合同訓練にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の人格を尊重し、職員はバラバラにならないよう話し合っって統一した声掛けをしている。言葉遣いは、自分が言われて嫌な言い方をしないよう気をつけ、丁寧な声かけで対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で入居者様は十分に思いや希望を述べられます。思いを胸に閉じ込めていると感じた場合は、本人と職員で十分に話し合いの場を持って自己決定ができるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中であっても声かけられた場合は、手を止めて入居者様を優先し対応している。日頃より一人ひとりのペースをつかみ、その思いを大切に、なるべく希望をかなえられるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ好きな方は毎日洋服を日に何度も変えたり、自分で選んだり自由に着ています。そのようなことができない方は、職員と一緒に洋服を選んだり、参考になるような意見を聴いたりして自分で決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より好みの物を伺って献立に取り入れています。食事の下準備や調理の手伝い等職員と一緒に作っています。又、食事の後片付け食器拭き等は当番制に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食の量が決められている方もいますが、体重の増減などを参考に一人ひとりの状態に応じ栄養バランスを気にしています。水分量の少ない方もあるので、ペットボトルを用意し持参して飲んで頂いたり、みそ汁を3食に付けたりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科衛生士による清掃がある方もいます。毎食後の歯磨きは声掛けしています。わからない方には洗面所まで誘導し、一つ一つ声掛けしながら自分でやれるよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-)+(Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄時間の間隔を把握する。又、本人の意思表示を見のがさないようにして、トイレで排泄できるように誘導しています。現在オムツ対応は1人もいません。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・散歩・手足の運動をして筋肉の低下を防ぐことに努めています。10時と3時におやつと一緒に水分補給をしています。水分を十分取れる様3食に味噌汁をつけたりします。食事では食物繊維を多く取り入れるよう工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間に関しては決められていますが、入浴時は本人の希望に添える様しています。例えば1人で入りたい方には、職員の介助は遠慮したり、お湯の温度調節をしたり長く入りたい方はそのようにするなど個々に沿った支援をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切にしています。意思表示行動できる方は、各々自由にお好きな時間を過ごしています。そうでない方は意思を確認しながら声掛けを中心に少しでもその方の思いに近づくようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局よりの処方箋で効力、副作用が記載されていますので必ず読み、理解しています。服用時は渡す前に本人の前で名前の確認、飲み込むまで確認をし、誤薬の無いように気をつけています。体調の変化がある場合は医師に連絡を取り指示を受けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を職員が決めることなく、本人に出来るかお願いして自身の意思でやって貰っています。嗜好品などは意見を求め、献立に取り入れることにしています。外に出ること、レクレーションなドレ気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や願い事は必ず家族様に伝えてお願いすることもあります。ご家族不都合の場合施設の有料を使って気兼ねなく好きなだけ利用して頂いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の外出支援を利用して買い物援助をしている。好きな物を選んだり、その買い物の支払いは自分で行ったりする時は見守り援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があればご家族様に連絡を取り、直接言葉を交わせるように支援している。またご本人の思いを伝える事も重要としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中BGMを流し、暑さ寒さの調整や、光の明暗にも気を使っている。月の行事の物を利用者様と共に制作しホールや玄関、あるいはご自分で居室に飾ったりして楽しんだりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは各自の席があり、わかるように名前を書いてある。ゆっくりしたい方やテレビを見たい方はソファが2つあるのでそちらに移動してくつろいでいる。トイレや浴室などは大きな文字で場所がわかるように掲示があるので迷わないような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望する物や使い慣れた物は家族と相談して持ってきてもらっています。面談の中より好み他こだわりのあることまで把握して居心地良く過ごせるよう工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部の各箇所には大きな字で名前を張り出し一目でわかる様にしています。居室に毎日の日課を張って自分で行動している方もいます。挨拶当番や手伝い表を見に来て自分で判断してやってもらっています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(3号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成30年9月19日	評価結果市町村受理日	平成30年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kami=true&JigyosyoCd=2276400071-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成30年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

青空と山の緑のコントラストを見ながら、小鳥のさえずりを聞き館内を散歩しています。畑を耕し、ボランティアの方と入居者様、職員と一緒に苗を植え育て、収穫し献立に取り入れています。毎月季節を感じる行事を計画実施し、特に夏祭りでは、子供会、老人会、自治会の方々を招待し、地域との関わりを大切にしています。入居者様の話を傾聴し、一日を通してその方の『出来る事』を十分発揮できるように支援しています。又一人で居たい時は居室で過ごし、皆と過ごしたい時にはホールに来て、歓談したりして、今までの生活のペースに合わせ思い思いに過ごして頂ける様にしています。特に、身体拘束や虐待防止に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ししとう、おでん大根等が植わる畑と、季節の花が咲き誇る庭園を囲むように3つのユニットが別棟で建つ事業所です。この畑には草刈り、土ならしと裏方に徹する畑ボランティアが訪れ、利用者も芋や花の苗の植え付けを手伝っていて、事業所の一大イベントとして昇華しています。畑の収穫物も使い、子どもたちと並んで野菜の皮むきをしたり、鍋の煮え具合をみたりと楽しい時間を過ごし、120名分のカレーを調理した夏祭りも思い出の一つです。また公民館まつりやかわせみカフェなど地域行事にも欠かさず出かけ、地域情報の窓口でもある「健康クラブ」と「子ども会」は運営推進会議メンバーとなっており地道な交流が実っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」の理念を頭に入れ、職員一人一人入居者に対応している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、施設それぞれの行事の連絡を取り合い可能な限り参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の理解や対応を考えてもらえるよう声掛けをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を開き、地域の方や入居者のご家族、職員がお互いの意見を交換し、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、お互いに情報提供しあい、今の実情を知っていただき協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を設け3か月に1回実施状況の話し合いをしている。また「身体拘束ゼロへの手引き」を用いどんなことで身体拘束になるのかを勉強している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修で虐待の勉強をし、話し合う時間を設けている。身体面以外の言葉や態度の虐待にも気を付け対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んだり、個々がスキルアップのために勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの質問があればその都度説明し、理解、納得をしていただけているようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族からの意見を参考にさせてもらったり、改善点をうかがい運営に反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コスト削減に向けた取り組みを職員皆で考え、職員会議等で提案し管理者は検討後反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の方針を細かく説明したうえで、職員が納得し向上心を持って働けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修や外部での講習会等に参加し、レベルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業の職員と交流する機会があり其れを通してサービスの質の向上ができています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な気持ちで入所されるので、本人や家族の意向をうかがい話し合っ安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者やご家族の困っていることや要望を聞いてそれに添ったケアプランを作成しサービスにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時、本人とご家族に何が必要なのかを考え、他のサービスも踏まえ話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事、炊事、畑の作業など、今までやってきたことを職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子を月に一度便りで知らせている。また体調の変化や要望等、来設時に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき、友人等が気楽に来設され、楽しく話をしたり一緒に外出されることもある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間と同じ席にしたり、耳の遠い方には職員が間に入り楽しく過ごしていただけるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば情報を提供している。同じ系列の施設に移動する方は近くへ行った際顔を見に行くなどして関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で入居者と会話をしたり行動から思いをくみ取り介護に活かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集表にて生活歴や環境を確認し、本人にも今までの生活をうかがい介護に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化やいつもと違う行動等細かく記録し職員皆が把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度モニタリングを行い本人の困っていることや希望を伺い、できる限り実行している。またご家族にもその都度相談、報告している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過表に個々の気付いたことをその日のうちに記入して職員間で共有し介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設外への散歩に出掛けたり、お菓子を買に行きなど本人の要望に出来る限り応えられるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり地域の方の協力のもと畑を作り畑のお世話や収穫を楽しんでいる。また花壇作りに挑戦し散歩等で花を愛でている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の往診があり、医師からの意見があれば家族に伝えている。また本人の希望や必要に応じては専門医の受診もしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が来て体調変化などの相談をしている。又適切な服薬や処置などの助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での様子や認知症に関する内容を伝えている。医療連携室や担当看護師と連絡を取りスムーズに退院出来る様連絡を取りあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から本人や家族にここで出来る事の説明をし、納得して頂いたうえで方針を決めている。連携の施設への移動も可能である事も伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や講習会で救命法を勉強している。また入居者の体調を把握し急変の時の対応の仕方を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練の手順等話し合い不備がないようにしている。又運営推進会議で災害時のことをご家族と話し合い、対応について理解を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った言葉使いや対応をし、尊敬やプライバシーを損ねないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し何か行う前には必ず声掛けしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人にあったペースで過ごしてもらっている。特に自ら希望を訴えられない方には職員から声掛けし一緒にレクや手伝いをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で選べる方には好きな服を選んでいただき、難しい方には職員が季節に合った服装をしていただくよう心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の仕分け、料理の下ごしらえ等お手伝いをして頂いたりご本人の体調に合わせて刻みやとろみで提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を一人一人チェックし、足りないときは栄養補助食品等でバランスが取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	まずご本人にやっていたいただき、仕上げに職員が口腔ケアを行っている。月に1度歯科往診をされてる方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄の時間を把握することでトイレで排泄できるように心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お腹のマッサージや体を動かすことで腸の働きを活発にさせていただき、水分を多く摂って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯の温度の希望を伺ったり、気の合う仲間と一緒に入り話が弾む事で楽しく入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や希望に応じ居室で休んでいたたり居室の温度に気を付けている。明かりもその方の希望の明るさで休んでいたたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人一人内服の用法容量は理解している。誤薬の無い様に名前を確認し、口の中に入ったか確認している。薬が変わったときは様子を見て変化があれば記録し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割を持ってお手伝いして頂き、今までやってきた趣味の編み物やちぎり絵を作り、楽しみが継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の行きたいところへは可能な限り外出援助している。ご家族と外食したりお家を見に行ったりする方もいる。又地域の行事にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば売店に注文したり隣のケアセンターに買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話をしたいとの希望があれば家人に伝え家人から連絡をいただいている。又携帯電話を所持されてる入居者は自由に電話をかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節に合わせた飾りを一緒に作り掲示する事で入居者との会話が弾んでいる。又台所の包丁の音や煮炊きの匂いを五感で感じ生活感があるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話や気の合う方たちは席を近くにして話ができるようにしている。ホールから居室までは仕切りがないので居室に行きたい時はいつでも行ける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットやタンス、机等家で使い慣れたものを持ってきていただき居心地良く過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には移動の妨げにならないよう障害物を置かないようにしている。自分の部屋がわかるように居室扉に名前の張り紙やトイレ等の張り紙をしている。		